



## ◆巻頭言 糖尿病・代謝・内分泌内科 助教 李 相翔

青葉が目眩しいこの頃、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今月は糖尿病・代謝・内分泌内科が担当です。糖尿病については、ご想像は容易かと思われそうですが、代謝・内分泌疾患とは何なのかと思われる方も多いと思います。代謝疾患とは、糖尿病などの糖代謝異常、高脂血症などの脂質代謝異常、高尿酸血症などの尿酸代謝異常などが対象です。内分泌疾患とは、バセドウ病などの甲状腺ホルモンに異常を来す疾患、クッシング症候群などの副腎皮質ホルモンに異常を来す疾患、アジソン病などの脳下垂体ホルモンに異常を来す疾患などが対象です。



当科は糖尿病を主に診療しておりますが、国際糖尿病連合の発表によりますと、2015年で世界の糖尿病有病者数は4億1,500万人に上り、2040年までに6億4,200万人に増加すると予測されています。日本の糖尿病人口は世界第9位で、糖尿病が強く疑われる人、糖尿病の可能性を否定できない人を合わせて約2,050万人いると言われております。糖尿病は脳卒中や心筋梗塞、腎不全や眼底出血などの動脈硬化を起こすだけでなく、悪性腫瘍や感染症、認知症の発症とも強く関係すると言われております。日本の医療費は約40兆円を突破しており、今後、更なる高齢化社会により増加の一途を辿ると言われております。糖尿病を含む病気の早期発見・早期治療により、医療費の削減やQOL低下の予防に役立ちます。糖尿病が心配な方や今まで検査を受けた事がない方、健診で異常を指摘された方などは、いつでも当科までお気軽にご相談下さい。



### 第37号のトピックス

- 巻頭言  
内科系診療センター 内科  
糖尿病・代謝・内分泌内科  
李助教
- 小線源治療について
- eICU紹介
- 院内コンサートについて

## 小線源治療について

## 泌尿器科 教授 深貝 隆志

江東豊洲病院での小線源治療は、2015年8月から開始しました。すでに昭和大学病院で2005年1月から開始しており、今年4月には施術症例数が総計1,000例を超えました。小線源治療は、シードと呼ばれるヨウ素125を含む小さなカプセル状のチタニウムを、手術的に前立腺内に複数個挿入して配列する放射線の内照射です。正式には、『前立腺癌密封小線源永久挿入治療』というのですが、長く複雑な名称のため、世間でも院内でも、『シード』、『小線源』や『ブラキ』などと皆さんに略称されています。

手術時間は多くの症例で短時間で済んでいますが、厳密な線量計算と正確な挿入技術を要するとてもデリケートな治療です。低侵襲で治療成績も良好なため、幸い継続的に多くの症例を集めており、昨年度は124例に施行しました。当科では小線源治療が日本へ導入される以前の2000年から、米国施設への留学によって治療技術を十分に習得しておりましたので、導入直後から大きな問題もなく順調に施行しており、開始時より継続して国内で上位施設に入る症例数を維持しています。

また、この治療はチーム医療の典型例であり、施術する泌尿器科医のみならず、治療計画を立案する放射線腫瘍医、放射線技師、看護師など皆さんの治療への理解がないと成り立ちません。この点で皆様のご協力を得てスムーズに行えていることを感謝しております。また当院では、小線源専用治療室が他の多くの施設とは異なり、手術室内に設けられています。十分なスペースの手術室に麻酔科医が常駐し、緊急時にも対応できる十分な機材の確保ができている環境下で行われていることが、医療安全面でも大きなアドバンテージになっています。泌尿器科領域、特に前立腺がんの治療は先進技術の導入が早く、数年前からロボット支援下手術が全摘手術としては近年台頭しています。しかし、小線源治療はその低侵襲性と有害事象の少なさ、良好な治療成績から年間3000例程度の症例数が本邦では維持されており、当科においても昨年は過去最多の症例数であったことなどから、今後も多くの症例数が維持できると推測しています。

引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



右から3番目 深貝教授

## eICUの紹介

## 麻酔科 教授 鈴木 尚志

ICUあるいはその邦訳である集中治療部[室]と呼ばれる部門が、多くの病院に設置されている事をご存じの方も多いと思います。ICUは「内科系、外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し強力かつ集中的に治療看護を行うことにより、その効果を期待する部門」と日本集中治療医学会では定義しています。当院では、ICU・CCU注)として4階手術室に隣接して設けられています。一般病棟に比べて1病床当たりの床面積はかなり広く、看護師の配置数も多く、高度な医療器機も備えています。手術後に嚴重な管理を要する患者さまのほか、心筋梗塞、脳卒中、

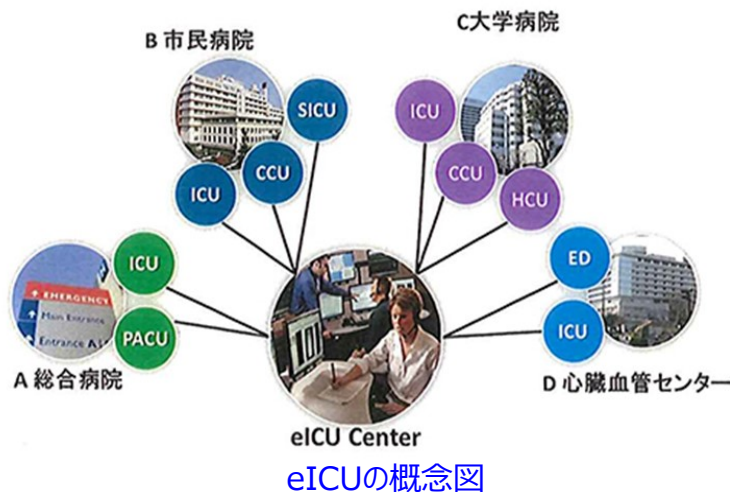


前列左から2番目 鈴木教授

呼吸不全などの内科的な救急患者さまが主な対象となっています。急性期を乗り越えた患者さまは、一般病棟に転室していただきます。

表題のeICUとはコントロールセンターと複数病院のICUを仮想プライベートネットワークで接続することにより、それぞれのICUの患者さまの状態・データをコントロールセンターの医師や看護師が監視する遠隔医療プログラムであり、フィリップス社が2000年から米国で展開している事業です。昭和大学は同社と共同で、昭和大学病院（品川区）と当院ICUを繋ぐ本邦初のeICUシステムを設置し、その有効性を実証研究します。目下、工事を終了して準備期間にあります。既に見学者も訪れています。運用開始後に有用性が確認された場合は本学の昭和大学藤が丘病院（横浜市）と昭和大学横浜市北部病院にも本システムを導入する計画です。

注) CCUは冠動脈疾患集中治療施設を意味します。



## ◆ 院内コンサートを開催しました♪



平成29年4月22日(土) 15:00より当院1Fタリーズ前で院内コンサートを実施いたしました。

今回のグループはメキシコから1名(メインボーカル)、アメリカから1名(デュオの女性ボーカル)、シンガポールから1名(ギター)、ジャマイカから1名(バイオリン)日本から2名(ピアノ、デュオの男性ボーカル)による構成でした。当院に入院している患者さんやお見舞いの方など、50名ほどの方が、美しい歌声と演奏に聴き入っていました。



## 編集後記 上條 由美

プロスポーツ選手の試合を実際にみにいくと、臨場感があり、観客の一体感が味わえ、ストレス解消にもなります。中でも大相撲観戦で目の前でみる力士の取り組みは、体と体がぶつかる音とスピードに迫力があり見応えがあります。大相撲は国技として、日本の文化に深く根付いています。もうすぐ5月場所が始まりますが、江戸町人もこうして楽しみにしていたのかもしれない。



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38

TEL03-6204-6000 (代表)

発行責任者：笠間 毅 編集責任者：長谷川 真

